

A 事 業

I 日本自転車振興会補助事業

1. アジア太平洋協力意見交換会

アジア太平洋地域との産業協力・経済交流・相互理解の促進を図るため、アジアに関する講演会、セミナー等のほか、会員相互・来日アジア要人との交流会、意見交換会等を開催した。

(1) 月例講演会

開催日	テーマ	講師	参加人数
第 299 回 平成 17 年 4 月 26 日 (火)	「EU による対中国武器輸出禁輸措置解除の背景」	中川 十郎 (東京経済大学 経営学部教授)	31
第 300 回 平成 17 年 5 月 17 日 (火)	「最近の我が国の経済協力政策」	杉田 定大 (経済産業省 貿易経済協力局通商金融・経済協力課長)	35
第 301 回 平成17年6月23日 (木)	「国境無き医師団とは」	寺田 朗子 (国境無き医師団日本 前会長)	21
時局講演会 平成 17 年 6 月 27 日 (月)	「最近の日中関係と米国の東アジア政策」	趙 全勝 (アメリカン大学国際関係学部教授、ハーバード大学フェアバンク東アジアセンター研究員)	50
第302回 平成17年7月21日 (木)	「憂鬱な日韓関係の深淵にせまる」	伊豆見 元 (静岡県立大学教授)	40
夏季連続セミナー 平成17年8月3日 (水) 4日 (木)	「台湾・中国・日本相関関係を読み解く」	若林 正丈 (東京大学大学院総合研究科・教養学部教授) 喜田 修 (台南県・長栄大学客員教授 元外交官) 陳 東瀛 (台湾経済研究院・東京事務所代理所長) 高田 智之 (共同通信 中国室デスク) コーディネータ兼任	64
第 303 回 平成17年9月9日 (金)	「日本を取り巻く国際情勢の大きなうねり—東アジアにおける安全確保の道をさぐる」	淵本 康方 (共栄大学 学長)	37

第 304 回 平成17年10月6日 (木)	「原油高騰の背景と世界経済への影響」	須藤 繁 (国際開発センター主任研究員)	25
第 305 回 平成17年11月10日 (木)	「北東アジア安全保障シンポジウム詳報」	阿久津 博康 (特定非営利活動法人岡崎研究所 主任研究員)	29
第 306 回 平成 17 年 12 月 13 日 (火)	「プーチンロシアの対日政策と対中政策：ロシアがみるアジアの将来図」	月出 皎司 (東京財団 ロシア語オピニオンサイト編集長)	30
新春講演会 平成 18 年 1 月 12 日 (木)	「2006 年 アジア経済の展望」	伊藤 元重 (東京大学大学院経済学研究科教授)	66

(2) ACFアジア研究会

1. 「BRICs の躍進と日本経済」 座長：内藤 徹雄 (共栄大学 国際経営学部教授)

開催日	テーマ	講師	参加人数
第72回 平成 17 年 5 月 13 日 (金)	「ブラジルとアジアの経済関係」	内多 允 (名古屋文理大学 情報文化学部教授)	13
第73回 平成 17 年 6 月 22 日 (水)	「注目されるインドー中国との比較」	臼居 一英 (国際協力銀行 国際審査部次長兼中国南アジアグループ参事役)	24
第74回 平成 17 年 7 月 22 日 (金)	「対中・インド ビジネス比較考」	谷野 作太郎 (榊東芝 取締役)	36
第75回 平成 17 年 8 月 1 日 (月)	「ロシアはBRICs の一員か」	高橋 浩(ロシア東欧貿易会 経済研究所次長)	20
第76回 平成 17 年 9 月 14 日 (水)	「新興市場大国 BRICs の挑戦」	今村 卓 (丸紅経済研究所 チーフ・エコノミスト)	23

(2) 第77回 最終講義

「現地でもみた北東アジア国境地域の経済・貿易・人の移動ー韓国ソウル及び中国吉林・黒龍江省とロシア沿海地方の調査から」

平成17年11月18日 (金) 横田 高明 (大阪産業大学 経済学部教授)

(5) 中央アジアセミナー

エネルギー資源をめぐって世界的に注目を集める中央アジア地域の経済、産業、政治状況及びその周辺国との関係等様々な角度から解説するセミナーACF講座「中央アジアを知る」(第29回～第32回)を開催し、全4回、145名が受講した。

座長：高橋 和夫 (国際政治学者/放送大学助教授)

開催日	テーマ	講師	参加人数
第29回 平成17年4月21日(木)	「日本の対中央アジア政策の展開」	道井 緑一郎 (外務省 中央アジア・コーカサス室長)	45
第30回 平成17年7月14日(木)	「ウズベキスタン・アンディジャン事件にみる今日の中央アジア情勢」	ティムール・ダダバエフ (東京大学東洋文化研究所東洋学譲歩センター助教授)	37
第31回 平成17年11月17日(木)	「アフガニスタン議会選挙とその後の動向」	柴田 和重 (アフガン・ネットワーク) 田中 浩一郎 ((財)日本エネルギー経済研究所研究主幹)	18
第32回 平成18年1月20日(金)	第1部 講演 「タジキスタンの新国家開発戦略(2006-2015)草案」 第2部 報告等 最近の「中央アジア・南コーカサス情勢」—「ドミノ的カラー革命」等	本村 和子 (アジア開発銀行タジキスタン事務所 前駐在代表) 田中 哲二 ((株)東芝常勤顧問/ 国連大学長上級顧問)	45

(6) 中央ユーラシア調査会 (専門家による研究会)

我が国において調査、研究の遅れている中央ユーラシア地域(朝鮮半島から小アジアにかけて存在する国々及び地域)の政治、経済、産業、文化、歴史等全般について基礎的な調査・研究を行い、各国を専門とするメンバー相互に情報提供し、討議することにより、当該地域に関する認識を深めることを目的とする。研究者、現地経験者を中心とする専門家。本年度は全12回開催し、延べ150名が出席した。(非公開による)

座長：袴田 茂樹 (青山学院大学 政治経済学部)

開催日	テーマ及び報告者
第49回 平成17年4月28日	高橋 和夫 (国際政治学者/放送大学助教授) 「アメリカと変動する中東 — イラン関係を中心に」
第50回 平成17年5月30日	山田 哲也 (国際協力銀行 開発第4部第2班調査役) 「独立後の中央アジア・コーカサスへの公的経済支援について」

第 51 回 平成 17 年 6 月 29 日	川井 晨嗣 ((財)農林水産長期金融協会 基金第二部長) 「中央アジアの農村問題 – 農業金融の立場から」
第 52 回 平成 17 年 7 月 28 日	石川 慎介 (NHK 国際部記者) 「ウズベキスタン アンディジャン事件取材記」 田中哲二 ((株)東芝常勤顧問/国連大学長上級顧問 「中央アジア出張報告」
第 53 回 平成 17 年 8 月 10 日	本村 和子 (前アジア開発銀行タジキスタン事務所 駐在代表社) 「タジキスタンの安定と発展への挑戦 – 開発援助の前線で見えた国づくりの課題」 袴田 茂樹 (青山学院大学国際政治経済学部教授) 「政変ドミノ後の CIS 諸国」
第 54 回 平成 17 年 9 月 15 日	清水 学 (一橋大学経済学研究科 教授) 「北朝鮮出張報告」 田中哲二氏 ((株)東芝常勤顧問/国連大学長上級顧問) 「中央アジア出張報告」
第 55 回 平成 17 年 10 月 13 日	清水 学 (一橋大学経済学研究科 教授) 「上海協力機構の現状」 岡田 晃枝 (東京大学大学院総合文化研究科「人間の安全保障」 プログラム助手) 「キルギスタン出張報告」
第 56 回 平成 17 年 11 月 24 日	角崎 利夫 ((財)国際開発高等教育機構 専務理事 /前駐カザフスタン特命全権大使) 「中央アジア情勢の現状と展望」
第 57 回 平成 17 年 12 月 15 日	古屋 薫 (日本学術振興会特別研究員 /東京大学大学院人文社会系研究科博士課程) 「フェルガナ調査報告」
第 58 回 平成 18 年 1 月 30 日	月出 皎司 (東京財団 ロシア語オピニオン・サイト編集長) 「ロシアのアジア外交。最近の動きと、その中での日露関係」
第 59 回 平成 18 年 2 月 21 日	湯浅 剛 (防衛庁 防衛研究所 主任研究官) 「中央アジア国際関係の変動 : EurAsES と CACO の拡大・統合を中心に」
第 60 回 平成 18 年 3 月 14 日	河東 哲夫 (日本政策投資銀行 設備投資研究所 上席主任研究員 /前駐ウズベキスタン特命全権) 「中央アジアで日本は何をどうしたらいいのか？」 浜 勝彦 (創価大学教授) 「中国エネルギー<危機>と<省エネ>発展戦略への転換」

2. アジア太平洋シンポジウムの企画・開催

(1) Destination India (インド・ビジネス・フォーラム)

開催日：平成17年4月13日(水)

開催場所：日商国際会議場(日本商工会議所7階)

テーマ：

パネリスト：

(2) 日本・マレーシア国際フォーラム報告会

2005年3月にクアラルンプールでマレーシアのサポーターティング・インダストリーの国際競争力をいかに強化するか、そのために日本とマレーシアの間でどのような協力が可能かについて日マの有識者の率直な意見交換を行う日本・マレーシア国際フォーラムを開催した。このフォーラムの成果を今後の事業展開に活用するため、また、アブドラ政権の直面する政治課題、対日経済課題を検討するため、フォーラム参加者による報告と有識者との意見交換を行う報告・講演会を開催した。

・開催日：平成17年7月20日(水) 午後1時30分～午後5時30分

・開催場所：スカイホール マリーナ(世界貿易センタービル38階)

・報告者：

小野沢 純(拓殖大学 国際開発学部 教授)

穴沢 眞(小樽商科大学 教授)

高多 理吉(福岡工業大学 教授)

早瀬 紘一(JETRO 海外投資アドバイザー)

豊島 格((財)アジアクラブ 理事長)

講演者

杉田 定大(内閣官房知財戦略推進事務局 参事官)

中村 正志(JETRO アジア経済研究所 地域研究センター 研究員)

・参加者25名

(3) モンゴル国際シンポジウム

1990年代に資本主義経済へと移行したモンゴルに対し日本は経済発展に積極的な支援を続けているが、社会主義時代の負の遺産としての農業、工業化の遅れ、他者依存体質が問題になっていることが2002年に開催した「モンゴル・ビジネス・フォーラム」では討議された。こうした状況を踏まえフォーラムのフォローアップならびに、モンゴルに対する日本企業などからの投資環境の調査研究を目的として国際シンポジウムを開催した。

・開催日：平成17年7月14日(木)、15日(金) 午後1時30分～午後6時10分

・開催場所：チングスハーン・ホテル内会議室 ウランバートル・モンゴル

・テーマ：モンゴルの現状と今後の日・モ関係の展望

・パネリスト：

(日本側) 守野 友造 (立命館アジア太平洋大学 教授)

二木 博史 (東京外国語大学 教授)

牧原 創一 (モンゴル文化教育大学 学長)

豊島 格 ((財) アジアクラブ 理事長)

(モンゴル側) ナムハイジャムツァン (モンゴル国大統領経済問題相談役)

D.ツェデブ (モンゴル芸術大学 学長)

タワー・ナムジル (モンゴル国立大学 経済経営学院 教授) 他

コーディネーター：蓮見 治雄 (東京外国語大学 名誉教授)

参加者：150名

(4) パキスタン・ビジネス・セミナー & シンポジウム

「啓蒙された近代的ムスリム国家」の建設を目指すパキスタンは経済発展が社会建設の土台作りであるとして経済再建に真剣な努力を続け、成果も現れてきている。パキスタンは中東や中央アジアへの入り口であり、また、中東からのエネルギーの安定供給、安全確保のためにもパキスタンの安定は死活問題である。また、日本では今まであまり戦略的重要性や協力関係の必要性の認識が不十分であったことなどを鑑み、パキスタンの経済開発戦略を紹介し、経済関係促進の障害になっている問題を両国の識者間で忌憚のない意見交換を行うセミナーを開催した。

・開催日：平成18年1月24日(水) 午前10時～午後5時30分

・開催場所：スカイホール マリーナ (世界貿易センタービル38階)

・テーマ：パキスタンとの経済協力関係緊密化にむけて

・パネリスト：Mr. Mohammad Jehangir Bashar, Secretary, Board of Investment

Mr. Saquib H. Shirazi, Member, Executive Committee, Atlas Group

山村 彰 (パキスタン政府投資庁 名誉顧問)

小田 尚也 (JETRO アジア経済研究所 地域研究センター
南アジア研究グループ長代理)

・コーディネーター：広瀬 崇子 (専修大学 教授)

・参加者：20名

(5) パキスタン・ビジネス・シンポジウム

・開催日：平成18年1月24日(水) 午後2時～午後4時

・開催場所：世界貿易センタークラブ (世界貿易センタービル38階)

・テーマ：①パキスタンの投資環境・海外直接投資について

②パキスタンの経済発展と日本企業 など

- ・パネリスト：Mr. Mohammad Jehangir Bashar, Secretary, Board of Investment
Mr. Saquib H. Shirazi, Member, Executive Committee, Atlas Group
山村 彰（パキスタン政府投資庁 名誉投資顧問）
- ・コーディネーター：広瀬 崇子（専修大学 教授）
- ・参加者：47名

3. 情報収集提供事業

アジア太平洋地域の経済・産業・社会・文化等に関する情報を収集し広く提供した。

(1) アジアクラブマンスリーの発行

アジア各国の経済・産業、ビジネス情報の他、映画・音楽・料理等の文化情報やイベントの紹介などアジアを多方面から紹介する月報『アジアクラブ・マンスリー』(The Asian Club Monthly)を95～105号まで発行し、会員および関係者、各地の図書館および全国の交流団体等を通じ広く一般に配布した。

95号	ワンポイント・アジア 政冷経熱の日中関係／音楽／映画「わが家の犬は世界一」／アジアン・アート：新連載 今を駆けるアジア作家たち 写真で知るアジア：アディバシ民族の魅力 他
96号	変わる韓国の労働市場、Disk Around Asia「Melody Queen Noor Jehan」アジア Reviews、今を駆けるアジアの作家たち—ヘマ・ウパディヤイ（インド）アディバシ民族の魅力、アジア料理 他
97号	本格化する中国の不動産投資抑制、シネマ「SKIP シティ国際 D シネマ映画祭」、アジアンアート：チョ・スプ（韓国） 他
98/99号	年後半の回復が期待される東アジア経済、シネマ「亀も空を飛ぶ」、Disk Around Asia：Kutut Manggun インドネシア 他
100号	台湾と中国の関係に変化の兆候、今を駆けるアジアの作家たち：ウーマー・リー ミャンマー、アジア Reveiws 他
101号	通貨危機後の韓国における家計支出の変化、シネマ「東京フィルメックス」、今を駆けるアジアの作家たち：ツアオ・フェイ、アトニへの旅—西ティモール他
102号	5中全会が示す中国の基本方針、Disk Around Asia：完美的一天/孫燕姿、シネマ「NHK アジアフィルムフェスティバル」他
103号	景気拡大が続く 2006 年のアジア経済、シネマスペシャル「2005、2006 年のアジア映画」、アジア料理：ベトナム、アジア Reveiws 他
104号	着実な成長が期待されるインド経済、アジア現代美術最前線 1、Disk Around Asia—理念的歌 Saya 台湾、シネマ「SPL 狼よ静かに死ね」 他
105号	始動する中国の東北振興、Disk Around Asia、アジアReviews、シネマ「うつせみ」、アジア現代美術最前線 2 他

(2) アジア人材情報の収集・提供

アジアの次世代をになうであろう各界の中堅企業家、政治家、学者、文化人等の情報を収集した。今まで情報収集した国は下記のとおり。

インドネシア、タイ、フィリピン、マレーシア、シンガポール、カンボジア、中国
ミャンマー、インド、ベトナム

本年度はカンボジア、フィリピンを除く 8 カ国 の更新・追加を行った。情報は総計
で約 1 9 0 0 名となった。これらの情報はホームページ上でアジア Who's Who として
広く一般に情報提供した。

II ロシア東欧貿易会受託事業

1. アジアラウンドテーブルの開催

アジアの経済人、学者等各界の有識者を一堂に集め、相互に国境を越えた討議を行う場
を設け、アジアの調和ある発展の方向を探る目的で、第 32 回アジアラウンドテーブルを
開催した。

1991 年にソ連邦の解体に伴い独立した中央アジア・南コーカサス諸国は、主に西側先進
国、国際開発機関の支援のもとに市場経済化の努力を続け一定の成果を上げてきた。しか
し、域内の経済開発は有資源国(主に石油)と非資源国との格差を生じつつあり、国内の
貧富の格差も拡大の危険性がある。世界経済が一種の地域統合の傾向が強まっている中
で中央アジア・南コーカサスも地域経済共同体のメリットを追求することが迫られているよ
うである。日本も「中央アジア+日本」構想のなかでこうした域内経済協力を強化する方
向での経済発展を支持している。

中央アジア・南コーカサスの 5 カ国の代表から各国の主体的な経済開発戦略を聞き、国
内の専門家との議論の場を提供することにより、この地域への日本のかかわり方を見直す
きっかけとするシンポジウムを開催した。

- ・開催日：平成 17 年 12 月 8 日（木） 午後 1 時～午後 5 時 30 分
- ・開催場所：スカイホール マリーン（世界貿易センタービル 38 階）
- ・テーマ：中央アジアにおける経済開発戦略と地域協力
- ・パネリスト

（中央アジア・南コーカサス側）

アゼルバイジャン：アゼル・フセイン（特命全権大使）

代理 I.ギュルセル（一等書記官）

ウズベキスタン：ミルソビット・オチロフ（特命全権大使）

カザフスタン：P.ヌルガリエフ（特命全権大使）

キルギス：U.サルバノフ（キルギス中央銀行 総裁）

タジキスタン：G.ババーエフ（タジキスタン財務省 大臣）

（日本側）

清水 学（一橋大学 経済学研究科 教授）

本村 和子（アジア開発銀行 タジキスタン事務所前駐在代表）

・コーディネーター：田中 哲二（中央アジア・コーカサス研究所 所長、
国連大学長顧問）

・参加者：100名

Ⅲ 機械工業等技術研修生交流事業

（社）日本機械工業連合会から事業を受託し、市民レベルでの友好親善と相互理解を深めるため、研修で日本に滞在するアジア等からの技術研修生等を日本の家庭に招くためのホームビジット斡旋事業を次のとおり実施した。

研修生は、3人1組で日本の家族と昼食もしくは夕食を共にし、数時間歓談し日本に対する理解を深めた。

参加した研修生：25名 受け入れ家庭：7家庭

なお、平成18年3月現在登録済みのホストファミリーは東京80家庭、

Ⅳ 一般事業

1. アジア食文化紹介講座

アジア各国の食文化、生活模様などを在日大使館や専門家等の協力を得て解説し、交流の促進をはかることを目的にあじあさろん クッキングクラスを開催し、全4回、139名が受講した。

開催日	国名	講師
第1回 平成17年5月28日	インドネシア	ファリダ・バギス インドネシア共和国大使館 通商産業部長夫人
第2回 平成17年8月27日	韓国	李 瑛子（(社)韓国茶道伝統礼節協会 東京支部長
第3回 平成17年11月19日	ベトナム	トラン・ティ・ミ・レイ （「ミレイ」オーナーシェフ）
第4回 平成18年2月4日	インド	ニティ・クマール（インド料理研究家）

2. アジア文化紹介講座

I. 映画講座

アジア各国で重要な産業として期待を集める「映画」について、その背景となる社会、経済状況を 専門家が解説する特別講座を全3回開催し、60名が受講した。

平成18年1月28日（土）

テーマ：「アジア映画の楽しみ方」

講師：寺脇 研（文化庁 文化部長）

平成18年2月25日(土)

テーマ:「アジア映画総論」

講師:紀平 重成(毎日新聞記者) / 山崎 泉(日本大学講師)
/ 岡 満美子(ジャーナリスト)

平成18年3月25日(土)

テーマ:「アジア映画総論」

講師:市山 尚三(映画プロデューサー / 兵庫大学 非常勤講師)
/ TOKYO FILMeX ディレクター / ヴェネチア映画祭国際審査員)
劉 文兵(日本学術振興会 特別研究員)

3. ナマステ・インドの開催

インド理解と交流促進のために、インド民族舞踊、音楽、映画上映、講演会などを始めとする各種イベントを組み入れた「ナマステ・インド」を2日間に渡って開催した。

- ・開催日:平成17年10月1日・2日
- ・開催場所:代々木公園 野外催事場
- ・主催:NPO日印交流を盛り上げる会
- ・後援:外務省、東京都庁、日本商工会議所、(財)日印協会、エアインド他
- ・内容:インド政府観光局・観光コーナー、ブックフェア、インド物産・料理屋台、サリー着付教室、インド写真展、松岡環講演会、インド音楽、舞踊の発表
- ・参加者:約50000人

VI ACFメンバーズ(アジアクラブ友の会)

アジアクラブ活動の一般への活動強化、財団事業の支持基盤の裾野拡大、各種事業へのアウトソーシングの活用等を目的とする『ACFメンバーズ』を平成10年2月に発足させ、会員数は406名に達した。会員参加のセミナー、研究会、イベント等を50余企画・開催し、メンバーの啓蒙に資するとともに、会員相互の交流が活発に行われた。

B 組 織

I 理事会の開催

当財団の重要事項を審議、決定するため、会長、理事長および理事をもって構成される理事会を本年度中に次の通り開催した。

第1回理事会

日 時 平成16年5月25日（火）午前10時20分～11時20分
議 題 1. アジアクラブの今後の方向性について

第2回理事会

日 時 平成16年6月15日（火）午後2時～午後3時
議 題 1. 平成16年度「日本自転車振興会補助事業」の実施 について
2. 平成15年度事業報告・収支決算について
3. 平成15年度日本自転車振興会補助事業「事業評価書」について
4. 顧問の推薦について

第3回理事会

日 時 平成17年3月22日（火）午後3時～午後4時
議 題 1. 平成17年度事業計画・収支予算について
2. 評議員の委嘱について
3. その他

II 評議員会の開催

第1回評議員会

日 時 平成16年5月25日（火）午前10時～10時20分
議 題 1. アジアクラブの今後の方向性について

第2回評議員会

日 時 平成16年6月15日（火）午後3時～午後3時40分
議 題 1. 平成15年度事業報告・収支決算について
2. 平成15年度日本自転車振興会補助事業「事業評価書」について

第3回評議員会

日 時 平成17年3月22日（火）午後2時～午後2時40分
議 題 1. 平成17年度事業計画・収支予算について

Ⅲ 維持会員

平成 16 年 3 月 31 日現在 32 社であった維持会員数は、平成 16 年度末には 29 社となった。